

# セコム健康くらぶ KENKO 会員様向けセミナーのご報告

## テーマ：「知っておきたいお口の話」 ～ 歯の健康から始まるヘルシーライフ～

2009年6月6日(土)、セコム健康くらぶKENKOがクラブサービスとして会員様向けにおこなっている、健康セミナーを開催いたしました。

今回のセミナーでは、身近で大切な“**お口の中のお話**”です。**歯の基本構造から、虫歯や歯周病のメカニズム、さらには、歯科ドックほか先端歯科医療までの**幅広く専門的な内容について、KENKO提携医療機関である、紀尾井町プラザクリニック院長で歯科医の、根深研一先生に詳しくお話しをいただきました。



### セミナー講義内容より

根深先生は最初に、歯の基本構造と虫歯のメカニズムについて説明しました。

歯は、表面が非常に硬いエナメル質、内部は比較的柔らかい象牙質の二層構造となっています。象牙質の内部は根管と呼ばれる空洞で、その中に神経と毛細血管が走っています。虫歯菌が産生する酸がエナメル質を溶かし象牙質に達すると、強い痛みを感じるようになります。

根深先生は、「虫歯がエナメル質や象牙質でとどまっている段階で歯科を受診すれば良いのですが、多くの方は神経に達し強い痛みが出て初めて受診します。この段階になると、神経を抜く治療、つまり根管治療が必要になります。」と述べました。

根管治療では、針のような器具（リーマー）で、神経を除去し無菌状態にしたうえで根管（空洞）の先端まで充填剤で埋め、上から被せものをして治療は終了します。ところが、根管の先端まで掃除をしないで、ばい菌が残ったまま被せものをする、根の先に膿がたまり歯の周囲の骨が破壊されます。強い痛みや腫れを伴うようになると、抜歯が必要になる場合もあります。

根深先生によれば、こうしたずさんな治療は実は少なくないそうです。その理由として、「根管治療は非常に手間がかかり、完全に根の先まで菌を取り除くには、時間をかけて精密な治療が必要ということ。また、目に見えない部分でもあるため、患者さんからはきちんと治療されたかどうかわからない。そういうこともあって、本来あってはならないことですが、手抜き治療がされてしまうこともあるのです。」と説明しました。根深先生はさらに、治療の手順が細かく決められ診療単価も低く抑えられている、歯科の保険診療の問題点も指摘。そのほか、「虫歯のなりやすさ」を科学的、客観的に測定し、予防策を講じる「歯科ドック」などについても触れました。

歯科をめぐる現状の問題点から、最先端の予防歯科医学まで、幅広い内容の講演に参加された会員の皆様も興味津々に聞き入り、質疑応答も活発に交わされ充実した内容のセミナーとなりました。



講師：KENKO提携医療機関：紀尾井町プラザクリニック院長 根深 研一 先生

根深研一先生 プロフィール

1968年宮城県生まれ。1995年岩手医科大学歯学部卒業。インプラント治療を中心とした臨床の傍ら、2000年からは毎年ヨーロッパに渡り(フランクフルト大学、ベルリン自由大学、エアランゲン大学、ウィーン市立病院などにて)、世界最前線のインプラント治療・骨移植を学ぶ。2000年ドイツ・フランクフルト大学歯学部にて、アンキロスインプラントインストラクター - コース修了。2000年～2005年ドイツデグサ社公認アンキロスインプラントインストラクター。2003年、日本大学松戸歯学部病態診断検査学系歯科臨床検査医学講座研究員。2005年、ニューヨークに滞在し、開業医、大学病院を視察。ニューヨーク大学インプラント科CDEにて研修。アメリカの歯科事情と最新のインプラント治療、骨移植、審美歯科、歯周病治療、予防治療等を学ぶ。2006年1月東京都千代田区にて「紀尾井町プラザ歯科」開業。2007年11月、美容形成外科・美容皮膚科を併設し、「紀尾井町プラザクリニック」としてリニューアルオープン。医療法人社団きらり理事長。社団法人国際抗老化再生医療学会理事。厚生労働省歯科臨床研修指導医。